

板谷波山、やきものを愛好する人々は彼を陶聖と呼ぶ。

【板谷波山という人、その作品と業績】

波山(1872-1963)は、明治から昭和にかけて約60年間の作陶人生を歩み、1953(昭和28)年に文化勲章を受章(工芸家として初)、2002(平成14)年には「葆光彩磁珍果文花瓶」が、近現代陶芸作品として初の国指定・重要文化財指定を受けた。波山陶芸の特徴とは、東洋の古陶磁がもつ鋭く洗練された造形を骨格として、19世紀末の西欧のアール・ヌーヴォースタイル、つまり優雅で官能的な装飾性を加えた、いわば東西の工芸様式の融合だ。崇高な造形は現在まで他の陶芸家の追従を許さず、日本陶芸史上において屹立した存在である。

【映画『HAZAN』について】

映画が映し出すのは今から約百年前、陶芸家波山が産声を上げてからの約10年間である。近代初の個人陶芸家を目指した波山が、様々な苦境に立たされながらも家族や仲間たちに支えられ、独創的な作風である「葆光彩磁(光を包むうつわ)」を完成させてゆく。波山役の榎本孝明、妻・まる役の南果歩が熱演し、スクリーンのなかではデビュー当時の波山作品が実際に使われた。映画は第12回ブルガリア国際映画祭グランプリ受賞に輝いた。

【この映画が突きつけてくるもの】

映像には理想の陶芸をひたすら追求し続ける波山夫婦の熱いパッションがほとばしっている。夢の実現に命を燃やす明治時代の芸術家魂が、私たちの心を強く揺さぶる。映画からのメッセージをどのように受け止めるか。現代の私たちに大きな課題を突きつけている。

【学習院大学と板谷波山、その交錯点】

学習院大学では2008(平成20)年より文学部哲学科に日本の工芸史を専攻する講座が誕生した。映画『HAZAN』の原作(原案)者・荒川正明教授が指導する。ゼミでは茨城県筑西市にある板谷波山記念館の活動をサポートし、大学院生を中心として資料の調査・研究を進め、その成果を記念館の秋季企画展に結実させている。まさに板谷波山研究の拠点が荒川ゼミだ。



彩磁ハツ手葉文花瓶 明治末期～大正前期



郷里の戦没者遺族に贈られた観音聖像 昭和10～30年代



彩磁花卉文香炉 昭和20年代



陶片を洗浄する荒川ゼミの学生たち(板谷波山記念館の中庭にて)

関連展覧会

特別企画展「明治の人間国宝」
10月2日(土)～11月28日(日)

会場：愛知県陶磁資料館
 開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
 休館日：毎週月曜日
 入館料：一般800円(640円) 高・大生600円(480円)
 小・中学生以下無料 * ()内は20名以上の団体料金
 住所：〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町234
 電話：0561-84-7474
 交通案内：リニモ「陶磁資料館南」駅 徒歩600m

開館30周年記念「板谷波山と郷里・下館」
10月16日(土)～12月12日(日)

会場：板谷波山記念館
 開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
 休館日：毎週月曜日
 入館料：200円・団体150円(10名以上) 高校生以下無料
 * しもだて美術館との共通券あり
 住所：〒308-0021 茨城県筑西市田町甲866-1
 電話：0296-25-3830
 交通案内：JR水戸線・真岡線/TX→常総線「下館」駅 徒歩10分



学習院大学
 創立百周年記念会館正堂
 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
 電話=03-3986-0221(内線 5716)
 URL=http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/art/
 JR「目白」駅 徒歩1分/
 東京メトロ「雑司が谷」駅 徒歩5分